

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人
------	----	-----	----	-----	----	-----

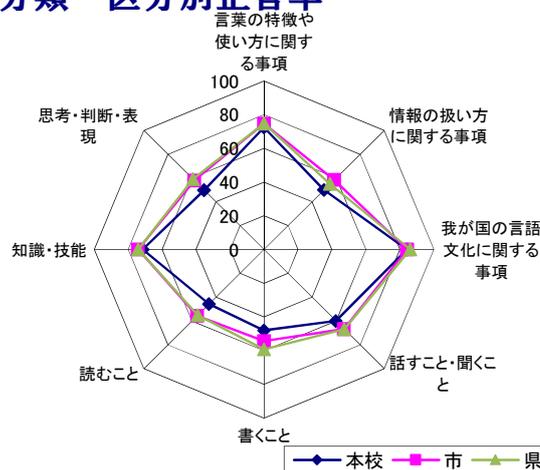
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.5	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	50.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	59.9	66.7	66.9
	書くこと	48.0	54.3	59.3
	読むこと	45.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	71.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	49.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

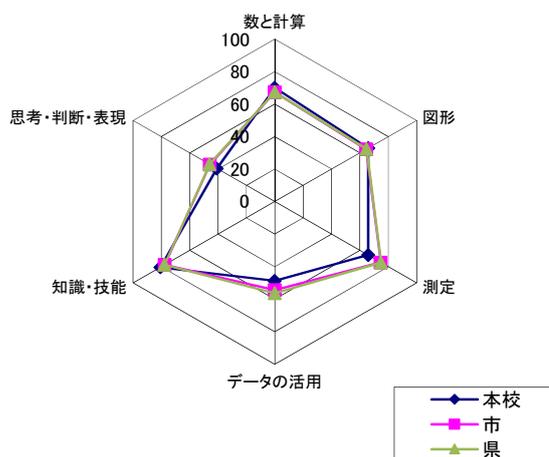
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>校内正答率は72.5%で、市の平均より2.2ポイント、県の平均より2.3ポイント低い。</p> <p>●「漢字を正しく書く(薬局)」の正答率は、31.6%で市の平均よりも24.7ポイント低い。また、無回答率も市の平均よりも5.0ポイント高く、15.8%である。</p> <p>●「主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ」問題の正答率は60.5%で、県の平均よりも5.4ポイント低い。</p>	<p>・説明文や物語文の学習で、主語や述語を確認しながら読解を行う。</p> <p>・タブレットのタイピングアプリを活用し、ローマ字に慣れ親しむようにする。</p> <p>・漢字の確認テストを定期的に行い、復習の機会を設けたり、日記や作文などで実践的に漢字を使う場を設けたりする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>●「例文で用いられた『うるさく』の意味として適するものを選ぶ」問題の正答率は50.0%で、市の平均よりも8.4ポイント低い。</p>	<p>・積極的に国語辞典を活用する機会を設ける。</p> <p>・読書を推奨し、語彙力を高めたり、言葉の意味が複数あることに気付かせたりしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○「『住』のへんとして適するものを選ぶ」問題の正答率は84.2%で、市の平均をわずかに0.1ポイント下回ったが、ほぼ同等である。</p>	<p>・引き続き、漢字ドリルやAドリルを活用し、繰り返し学習に取り組むことで定着を図っていく。</p> <p>・「ことわざ」「故事成語」ブックを作るなどして、楽しみながら我が国の言語文化に触れる機会を設けていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は59.9%で、県の平均より7.0ポイント低い。</p> <p>○「田中さんの意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる」問題の正答率は76.3%で、市の平均より2.0ポイント高い。</p> <p>●「司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選ぶ」問題の正答率は65.8%で、県の平均より10.4ポイント低い。</p> <p>●「参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」問題の正答率は10.5%で、県の平均より19.1ポイント低い。</p>	<p>・引き続き、根拠を明確にして自分の考えを発表する練習に取り組む。</p> <p>・司会者の役割や進行の仕方を確認し、児童が司会を務める話し合い活動を行う機会を設ける。</p> <p>・話し手の意図していることを考えて聞くよう、日常的に指導していく。</p>
書くこと	<p>校内正答率は48.0%で、市の平均より6.3ポイント、県の平均より11.3ポイント低い。</p> <p>●「こん虫について調べる方法について、指定された字数で文章を書く」問題の正答率は39.5%で、県の平均より16.2ポイント低い。</p> <p>●「こん虫について調べる方法について、2段落構成で文章を書く」問題の正答率は29.0%で、県の平均より15.5ポイント低い。</p> <p>●書くことのすべての項目において、無回答率が31.6%と県の平均よりも12.2ポイント高い。</p>	<p>・文章を書く際に、行数や段落、キーワードなどの条件を指定して書く学習に取り組む。</p> <p>・行事における作文指導や日記指導を通して、伝えたい相手や内容に応じた文章構成について指導していく。</p>
読むこと	<p>校内正答率は45.7%で、市の平均より9.9ポイント、県の平均より9.5ポイント低い。</p> <p>●「登場人物の気持ちとして、適するものを選ぶ」問題の正答率は73.7%で、市の平均より12.2ポイント低い。</p> <p>●「抜けている文を挿入する場所として適するものを選ぶ」問題の正答率は29.0%で、市の平均より11.2ポイント低い。</p>	<p>・物語文の学習では、叙述を基に、登場人物の性格や登場人物同士の関係、場面の様子について捉えられるように指導していく。</p> <p>・読書の機会を意図的に設けたり、読み聞かせを定期的に行ったりして語彙を増やしていく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.1	67.3	67.4
	図形	65.8	64.5	64.7
	測定	65.8	74.7	74.9
	データの活用	48.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	80.7	77.6	77.8
	思考・判断・表現	40.8	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

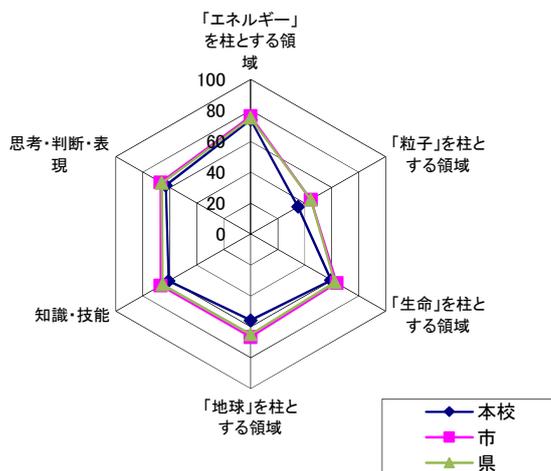
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は70.1%で、市の平均より2.8ポイント、県の平均より2.7ポイント高い。</p> <p>○「整数-小数第一の計算をする」問題の正答率は65.8%で、市の平均より17.0ポイント高い。</p> <p>●「余りの考えを用いて理由を説明する」問題の正答率は47.4%で、県の平均より16.1ポイント低い。また、無回答率が36.8%と高かった。</p>	<p>・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習を充実させたり、上央小算数検定を活用したりして、数と計算の力を伸ばしていく。</p> <p>・AIDリルを朝の学習や授業、家庭学習などで活用する。</p> <p>・自分の考えや計算方法を、根拠をもとに記述したり説明したりする活動を授業で展開していく。</p>
図形	<p>校内正答率は65.8%だが、市の平均より1.3ポイント高い。</p> <p>○「二等辺三角形を作図する」問題の正答率は86.8%で、市の平均より2.1ポイント高い。</p> <p>●「円の半径と直径について正しいものを選ぶ」問題の正答率は76.3%で、市の平均よりも5.0ポイント低い。</p>	<p>・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させるとともに、少人数指導で個別支援を充実させていく。</p> <p>・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。</p> <p>・円や球の半径や直径についての用語の復習をしたり、基礎的な知識を応用して問題を解くことができるよう指導したりしていく。</p>
測定	<p>校内正答率は65.8%で、市の平均より8.9ポイント低い。</p> <p>●「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える」問題の正答率は31.6%で、市の平均よりも18.5ポイント低い。</p> <p>●「身近な物の重さについて、正しくないものを選ぶ」問題の正答率は65.8%で、市の平均よりも14.8ポイント低い。</p>	<p>・重さの単位について理解し見当することができるよう、1kg=1000g、1t=1000kgのような単位の理解をさせたり、実際に測定したりする学習の充実を行う。</p> <p>・はかりの読み方について、一目盛りの大きさに注目させながら、見当をつけて読み取ることができるように指導する。</p>
データの活用	<p>校内正答率は48.7%で、市の平均より5.7ポイント、県の平均より7.7ポイント低い。</p> <p>●「棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える」問題の正答率が86.8%で、市の平均よりも2.4ポイント低い。</p> <p>●「2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注目しながら、棒グラフを読み取る」問題の正答率は10.5%で、市の平均より9.2ポイント低い。</p>	<p>・棒グラフの1目盛りの大きさに気を付けながら数を読み取らせる。</p> <p>・身の回りの事象について表やグラフを読み取るだけでなく、考察する学習も取り入れるようにする。</p> <p>・算数はもとより他教科においても、実際にグラフを読んだり、書いたりする活動を取り入れていくようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	35.1	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	59.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	55.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	60.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	63.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内正答率は73.9%で、市の平均より2.3ポイント、県の平均より1.2ポイント低い。</p> <p>○「実験の結果として適切な記録を選ぶ」問題の正答率は65.8%で、市の平均より5.0ポイント高い。</p> <p>○「電気が流れるつなぎ方について当てはまる内容を選ぶ」問題の正答率は94.7%で、市の平均より5.2ポイント高い。</p> <p>●「鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ」問題の正答率は57.9%で、市の平均より12.7ポイント低く、県よりも12.6ポイント低い。</p> <p>●「電気を通す性質があるものの名称を答える」問題の正答率は50.0%で、市の平均より14.1ポイント低く、県よりも11.6ポイント低い。さらに、無回答率が18.4%であった。</p>	<p>・実験の目的に応じた記録の表し方については、よく理解できているため、今後も継続して指導を行うことで、さらに定着を図っていく。</p> <p>・電気や磁石の性質について、身近な物を使いながら調べる実験を行うことで、結果を比較しながら差異点や共通点を見出し、電気や磁石の性質を捉えられるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内正答率は35.1%で、市と県の平均より9.4ポイント低い。</p> <p>●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び、選んだ理由を考える」問題の正答率は5.3%で、市の平均より4.8ポイント低く、無回答率が26.3%であった。</p> <p>●「物の重さから、同じ種類の木でできている積み木を答える」問題の正答率は65.8%で、市の平均より12.9ポイント低く、無回答率が26.3%であった。</p>	<p>・物の形や体積と重さの関係について、考えたり、説明したりする活動を充実させ、自分の言葉で表現できるように指導していく。</p> <p>・すべての設問について正答率が低かったため、朝の学習の時間等を活用し、復習することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>校内正答率は59.6%で、市の平均より4.0ポイント、県の平均より2.7ポイント低い。</p> <p>○「トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いを考える」問題の正答率は89.5%で、市の平均より10.4ポイント大きく上回った。</p> <p>●「虫眼鏡の正しい使い方を学ぶ」問題の正答率は15.8%で、市の平均より5.7ポイント低い。</p> <p>●「アゲハが卵を産みつける場所を選ぶ」問題の正答率は44.7%で、市の平均より24.0ポイント低い。</p>	<p>・虫眼鏡を使う活動の際には、使い方について繰り返し指導をし、正しい使い方の技能を身に付けられるようにする。</p> <p>・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生き物の実態を正しく理解できるように指導する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>校内正答率は55.8%で、市の平均より10.8ポイント低く、県の平均より9.1ポイント低い。</p> <p>●「太陽の位置の変化を方位で答える」問題の正答率は36.8%で、市の平均より8.9ポイント低い。</p> <p>●「温度計の使い方を学ぶ」問題の正答率は57.9%で、市の平均より17.2ポイント低い。</p>	<p>・日常生活の自然現象に対して、疑問をもつことの大切さを指導していく。</p> <p>・理科の実験用具の名称や、正しい使い方について、繰り返し指導していく。</p> <p>・実験用具の使い方や方位について、視覚的にも分かりやすく捉えられるような環境を整え、実感を伴って理解できるようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が71.0%で、県の平均より7.4ポイント高い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が84.2%で、県の平均より17.8ポイント高い。地域学校園で作成している「学習のすすめ」をもとに、低学年の頃から指導を続けてきたことで、家庭学習に取り組む態度が育ってきていると思われる。今後も継続して家庭学習の充実を図っていきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が84.2%で、県の平均より5.4ポイント高い。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が89.5%で、県の平均より5.2ポイント高い。全教員が上央小スタンダードを意識し、自力での課題解決や友達と交流しての課題解決の機会を設けて、授業づくりを工夫した成果が表れている。今後も継続していきたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が97.4%で、県の平均より3.4ポイント高い。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が86.8%で、県の平均より5.2ポイント高い。さらに、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が97.3%で、県の平均より4.6ポイント高い。これらのことから、学習の楽しさを感じることができるとともに、学習が将来のためになっているととらえて、前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが伺える。

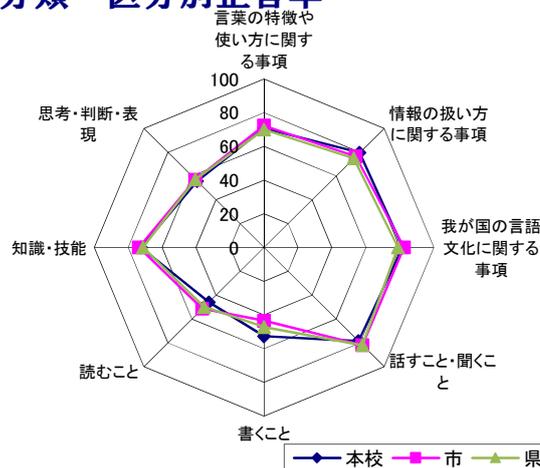
●「学校のきまりを守っている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が89.5%で、県の平均より2.9ポイント低い。また、「家でのきまりや約束を守っている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が81.6%で、県の平均より5.7ポイント低い。学校や家をはじめとして、児童が様々なきまりや約束を守って生活できるよう、きまりや約束の大切さについて繰り返し指導していきたい。

●「しゅらいのゆめや目標をもっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.0%で、県の平均より9.7ポイント低い。児童が自分の将来の夢や目標をもつことができるよう、宮・未来キャリア教育の一層の充実を図り、教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成していけるように働きかけていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	79.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	81.6	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	78.6	81.9	82.0
	書くこと	52.6	43.5	47.2
	読むこと	45.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	72.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	55.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

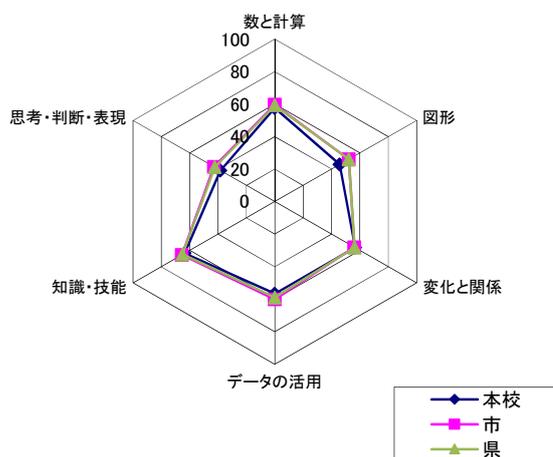
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>校内正答率は70.8%で、市の平均より1.5ポイント低く、県の平均より0.8ポイント高い。</p> <p>●「漢字を正しく書く」問題では、「旗」の正答率が51.0%で、県の平均より4.2ポイント、市の平均より4.9ポイント低い。無回答率は14.3%である。</p> <p>○「『朝には』が修飾している言葉を選ぶ」問題は、市や県の平均より高いものの、正答率が24.5%で</p>	<p>・漢字については、AIドリルの活用により漢字の字形を意識付けたり、漢字ドリルで繰り返し練習して漢字を熟語で使えるようにさせたり、様々な方法で練習を行う。</p> <p>・家庭学習チャレンジ週間の機会などを利用し、家庭でも漢字の学習に繰り返し取り組む習慣が身に付くよう、呼びかけていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○「漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ」問題の正答率は79.6%で、市の平均と比べて3.2ポイント、県の平均より4.7ポイント高い。</p>	<p>・普段から、情報と情報を関連付けて考えさせる機会を意図的に設定し、繰り返し指導していく。</p> <p>・資料を見て考えたことを話す単元では、資料から正確な情報を読み取ることと、自分の考えたことを資料と関係付けながら明確に伝えるように話すことを重点的に指導していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●「文を読み、適することわざ(急がば回れ)を選ぶ」問題の正答率は81.6%で、市の平均より0.8ポイント低い、県の平均より2.7ポイント高い。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習を利用して、ことわざの学習にも取り組むことができるよう日常的に呼びかけていく。</p> <p>・ことわざを掲示しておき、学校生活で類似した場面が見られたときは引用したり、ことわざを使った文章作りに挑戦させたりと、触れる機会を多く設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は、78.6%で、市の平均より3.3ポイント、県の平均より3.4ポイント低い。</p> <p>●「話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ」問題の正答率は、81.6%で、市の平均を7.5ポイント、県の平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・日常的に、話し手が伝えたいことを考えながら聞くように意識させるようにし、朝のスピーチや、話すこと・聞くことの単元のスピーチ(CD)を聞いた際に、ペアで内容を確認する機会を設ける。</p> <p>・聞き取りの問題については、必要なことを端的にメモして話の内容の全体を捉えることができるよう、指導を続けていく。</p>
書くこと	<p>校内正答率は、52.6%で、市の平均より9.1ポイント、県の平均より5.4ポイント高い。</p> <p>○「エコ活動についてのアンケート結果を読み、指定された字数で文章を書く」問題の正答率は、65.3%で、市の平均を17.1ポイント、県の平均を12.7ポイントと大きく上回った。</p>	<p>・アンケート結果を読み取り、指定された字数で文章を書くことはできている。さらに力を伸ばすために、構成メモや作文用紙なども活用し、段落を内容ごとに正しく分けて書いたり、書き方の留意点を踏まえて自分の考えをまとめるたりすることができるよう、指導していく。</p>
読むこと	<p>校内正答率は、45.9%で、市の平均より5.5ポイント、県の平均より3.9ポイント低い。</p> <p>●「文章を読み、その内容を説明した文の空欄に適する言葉を書く」問題の正答率は、28.6%で、市の平均を11.7ポイント、県の平均を10.5ポイントと大きく下回った。また、この問題の無回答率は16.3%であった。</p>	<p>・物語文や説明文では、文章に書かれている言葉や表現を基に内容を読み取った上で自分の考えをもつことができるよう、指導していく。</p> <p>・文章から読み取ったことを、書きぬいて表現するだけでなく、適切な言葉を使って表現する機会を意図的に設けていく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.7	59.7	59.2
	図形	45.6	52.1	52.1
	変化と関係	56.6	56.1	56.3
	データの活用	56.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	63.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	38.4	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

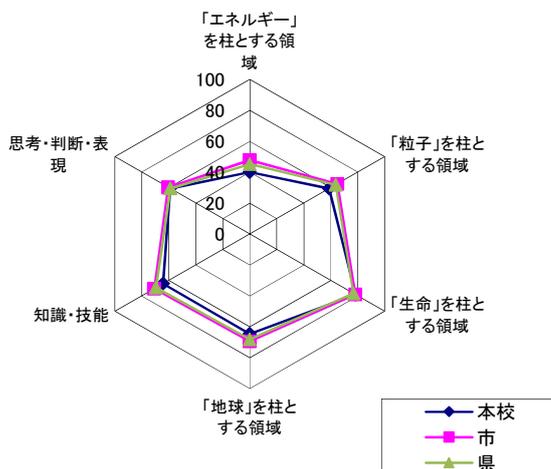
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は57.7%で、市の平均より2.0ポイント、県の平均より1.5ポイント低い。</p> <p>○「四則混合の式の計算の順序として正しいものを選ぶ問題」の正答率は55.1%で、市の平均より7.4ポイント、県の平均より5.6ポイント高い。</p> <p>●「大きな数の読み方として正しいものを選ぶ問題」の正答率は83.7%で市の平均より8.9ポイント、県の平均より8.8ポイント低い。</p>	<p>・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習を充実させたり、上央小算数検定を活用したりして、数と計算の力を伸ばしていく。</p> <p>・AIDリルを朝の学習や授業、家庭学習などで活用する。</p> <p>・計算をできるようにするだけでなく、そこにたどり着くまでの過程を大切に授業を展開する。</p> <p>・十進位取り法の仕組みを復習し、理解を深める。</p>
図形	<p>校内正答率は45.6%で、市及び県の平均より6.5ポイント低い。</p> <p>●「面積の単位の関係を説明した文の空欄に当てはまる数を与える問題」の正答率は、12.2%で市の平均よりも16.5ポイント、県の平均よりも15.6ポイント低い。</p> <p>●「ひし形の作図をする問題」の正答率は、51.0%で市の平均より20.3ポイント、県の平均より23.7ポイント低い。</p> <p>○「三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題」の正答率は71.4%で、市の平均よりも5.2ポイント、県の平均よりも6.7ポイント高い。</p>	<p>・コンパス・三角定規・分度器の使い方を正しく理解させるとともに、作図をする機会を増やし、用具の使い方に慣れさせる。</p> <p>・面積の意味や求め方について、具体的な操作を用いるなどして、理解を深める。</p> <p>・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。</p>
変化と関係	<p>校内正答率は56.6%で、市の平均より0.5ポイント、県の平均より0.3ポイント高い。</p> <p>○「数量の関係について、正しく表された図を選ぶ問題」の正答率は73.5%で市の平均より5.7ポイント、県の平均より4.2ポイント高い。</p> <p>●「表を横に見て周りの長さがいくつ増えているかを答える問題」の正答率は77.6%で市、および県の平均より3.9ポイント低い。</p>	<p>・数字を使った式だけでなく、○や□などの記号や言葉を使って式を立てる場面を授業の中でも取り入れるようにすることで、伴って変わる2つの数量関係を捉えられるようにする。</p> <p>・比例の関係を表す表から必要なことを読み取る活動を増やし、表を縦に見たり、横に見たりと、いろいろな見方で関係を読み取れるようにする。</p>
データの活用	<p>校内正答率は56.6%で、市の平均より3.5ポイント、県の平均より2.3ポイント低い。</p> <p>●「条件に当てはまる人数を答える問題」の正答率は、16.3%で、市の平均より8.6ポイント、県の平均より6.0ポイント低い。</p> <p>○「二つの折れ線グラフから分かることを答える問題」の正答率は、79.6%で、市の平均より0.4ポイント、県の平均より1.9ポイント高い。</p>	<p>・二次元表の問題を解くことで、読み方や、各欄の数値の求め方の理解を深めていく。</p> <p>・選択肢の意味をよく考え、折れ線グラフの数値と比較し、正解を導く経験を積ませる。</p> <p>・身の回りの事象について表やグラフに表す学習を取り入れるようにする。</p> <p>・他教科においても、実際にグラフを読んだり、書いたりする活動を取り入れていくようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	40.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	58.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.4	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	64.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	64.3	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.0	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内正答率は40.1%で、市の平均より7.7ポイント、県の平均より5.2ポイント低い。</p> <p>●「簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える」問題の正答率は18.4%で、市の平均より8.6ポイント低く、県の平均より5.3ポイント低い。</p> <p>●「電流が大きくなる回路を選ぶ」問題の正答率は44.9%で、市の平均より13.5ポイント低く、県より9.5ポイント低い。</p>	<p>・問題の必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。</p> <p>・視覚的に理解できるよう、掲示物や映像資料等を活用し、基礎・基本の定着を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内正答率は58.8%で、市の平均より6.1ポイント、県の平均より4.8ポイント低い。</p> <p>○「予想が正しかった場合の実験結果を選ぶ」問題の正答率は67.4%で、市の平均より11.9ポイントと大きく上回った。</p> <p>○「あたためられた空気の動き方を考える」問題の正答率は59.2%で、市の平均より9.9ポイント高い。</p> <p>●「実験結果の理由を選ぶ」問題の正答率は63.3%で、市の平均より20ポイント低い。</p>	<p>・体験的な活動を通して、関係付けて考えたりまとめた内容についてはよく理解できているが、理解したことを自分の言葉で記述する力を育てていく必要がある。今後も、体験的な活動を取り入れ、理解を深めるとともに、キーワードを使って自分なりに分かったことをまとめる学習を継続的に行っていく。</p> <p>・科学的根拠と実生活とを関連付けた授業を展開できるよう、指導の改善を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>校内正答率は78.4%で、市の平均より0.2ポイント高く、県の平均より1.6ポイント高い。</p> <p>○「あてはまるサクラのようすを選ぶ」問題の正答率は67.4%で、市の平均より6.3ポイント高い。</p> <p>●「あてはまるカエルのようすを選ぶ」問題の正答率は77.6%で、市の平均より6.8ポイント低い。</p>	<p>・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生き物の実態を正しく理解できるように指導する。</p> <p>・体の名称について正しく覚えることができるよう、他教科と関連付けながら、理解を深められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>校内正答率は64.6%で、市の平均より4.9ポイント、県の平均より3.5ポイント低い。</p> <p>○「調べてわかったことにあてはまる言葉を選ぶ」問題の正答率は75.5%で、市の平均より15.3ポイント大きく上回った。</p> <p>●「水蒸気の名称を答える」問題の正答率は40.8%で、市の平均より19.1ポイント低い。</p> <p>●「排水口が作られているところはどこになっているかを答える」問題の正答率は28.6%で、市の平均より10.5ポイント低い。</p>	<p>・科学的事象を自分の言葉で表現するために必要な用語を身に付けられるよう、ドリル的な学習を取り入れたり、日常生活と関連付けたりしていく。</p> <p>・キーワードを提示したり、身の回りにある様々な場面と結びつけたりしながら、根拠を基にして説明する力を育てられるようにする。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が91.8%で、県の平均より7.0ポイント高い。「主体的・対話的で深い学び」を目指した上央小授業スタンダードを意識した授業展開の実践により、自力で課題解決に取り組むという意識の定着が見られる。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が98.0%で、県の平均より3.5ポイント高い。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が93.9%で、県の平均より12.3ポイント高い。さらに、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が100%で、県の平均より5.8ポイント高い。これらのことから、学習の楽しさを感じることができるとともに、学習が将来のためになっているととらえて、前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが伺える。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、「全くしない」の児童の回答の割合が42.9%で、県の平均より23.7ポイント高い。児童に、読書をする意義を教えるとともに、本に触れる機会を意図的に設定し、読書活動の充実を図っていききたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームは除く)」の質問では、3時間以上と答えた児童の割合が42.9%で、県の平均より8.6ポイント高い。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問では、3時間以上と答えた児童の割合が38.8%で、県の平均より10.5ポイント高い。テレビやDVD、動画などの視聴時間やテレビゲームで遊ぶ時間が長いことで、学習時間が十分に取れていないことが考えられる。児童に家庭における動画視聴やテレビゲーム使用の時間について重点的に指導を行うとともに、家庭におけるルールの設定や使用時間についてノースマホデーの際に家庭で話し合う機会を設けてもらう等、家庭と連携して対応していきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の習得	朝の時間を活用して「上央小算数検定」を実施したり、AIドリル等のドリル教材を行ったりして、基礎的な学力の定着を図っている。また、4年生以上は算数科において習熟度別学習や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行っている。	4年生は、国語・理科の「知識・技能」の正答率が県と比べて低かったが、算数の「知識・技能」の正答率は上回った。昨年度4年生だったときに3教科すべてにおいて大きく下回っていた5年生は、算数・理科の「知識・技能」の正答率が県と比べて低かったが、国語の「知識・技能」の正答率は上回った。
学び合う活動の充実	全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開していく。課題解決の場面では、ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定し、学び合う活動を充実させるようにする。	4年生では、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が89.5%で、市の平均より6.4ポイント上回っている。5年生では、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、昨年度4年生だったときに比べて、8.3ポイント増加している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科の調査から、語彙力・読解力が低く、教材文や設問を正しく理解する力や、資料を読み取る力に課題が見られた。	読書活動の充実	朝の読書の時間など読書の時間に、自分の好きな本ではなく、学年お勧めの本を読み、まとまった文章を読む習慣を身に付けさせる。
「思考・判断・表現」の正答率が、全ての教科で市の平均を下回った。特に、記述式の設問で、無解答や条件を満たしていない記述が目立ち、自分の考えを根拠をもとに説明したり記述したりすることが苦手である傾向が見られた。	書く活動の充実	朝の活動や宿題などで、キーワードを提示したり、文字数などの条件を付けたりして、文章を書く練習を行う。また、各教科の学習において、自分の考えを文章で書かせたり、友達の考えを聞いて自分の考えを整理して書く活動を取り入れたりするようにする。